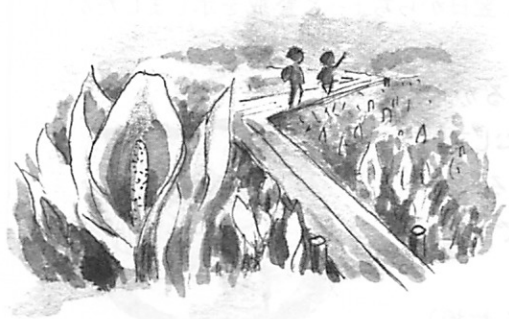


聴く

新潟いのちの電話だより

2015.6

No.125



相談電話

(025) 288-4343

上 越 (025) 522-4343

長 岡 (0258) 39-4343

新発田 (0254) 20-4343

村 上 (0254) 53-4343

ベランダ猫

橘 玲子

昨年の4月から、時間の余裕ができて自宅にいる時間が増えました。これまでは、ノラ猫なんて出会っていなかったのですが、猫好きな私は試しに余ったパンを置いて見ました。きれいになくなっています。ノラの仕業に違いないと嬉しくなって、煮干しやパンを置くと、餌のある場所とすぐに学習したようです。警戒心が強く、私が見ていると餌に近づきません。目を離すと少し餌に近づきます。「だるまさんがころんだ」とつぶやきながら目をそらすと、2、3歩近づきます。友人のすすめで「猫カリ」を置くと、一粒口にくわえて、これまでのように庭で食べたのです。これでは効率が悪すぎます。すぐに、私を観察しながら身体半分は逃げる体制、頭の方は食べる体制で食べ始めました。その様子が食欲と警戒心のせめぎ合いで何ともおかしい格好なのです。

私は猫との関係について実験をすることにしました。まず名前です。模様がちょうど黒いパンツをはいたようだったのでパンツと名付けました。2-3日もすると警戒が解けたのか腰を下ろして食べ始めました。1メートルくらい近づいても腰を下ろして食べています。耳はぴくぴくしていますが、やがて、ベランダで草花の植え替えをしても、寝そべって逃げなくなりました。パンツはベランダとそこにいる私に安心してきたようです。

餌を足してあげるつもりで、パンツが食べようとしているときに餌箱に近づいたら、私の手は強烈な猫パンチに見舞われ、爪痕に血がにじんできました。カッとした私は「恩知らず! 恥を知れ!」と、怒鳴りました。パンツも私の剣幕に餌を食べずにすっ飛んで逃げました。翌日からちょっと警戒を示しましたが、相変わらず餌を待っています。

私は反省しました。“餌をもらえるから安心、安全とはいかない。さらに安心していても危険感を動物は常に働かせている”と。カウンセリングにも役立つと思うのですが、いかがでしょうか。

(新潟青陵大学 大学院 教授)



ある日の相談室より

「毎日、娘と一緒にいるのが苦痛です。自分の娘なのに、これ以上耐えられなくて。前から約束していた友人との旅行に行くと嘘を言って、家から逃げ出して来たんです」1人でホテルに泊まっているという50代の女性からの電話でした。声から切なさが伝わってきました。

結婚し県外に住む娘から、夫がうつ病になり、これ以上夫とはやっていけないと相談を受けた。自分の娘だし、離婚して帰ってきて一緒に暮らそうと提案した。

「それから不幸が始まりました。帰って来た当初は、娘と孫を迎え我が家にはぎやかで分からなかったけれど、娘もうつになっていました」だんだんと落ち込んでいくのが分かり、死にたいと口にするようになったそうです。

「小学生の孫も、初めは学校になじんだように思えました。でも、体操着の用意、お便りの返事など、何かやらなくてはいけないことがあるたびに、娘は怒ったり泣いたりして。孫は学校の準備を満足にもらえず、とうとう学校を休みがちになりました」

「家を出たら、どんなにほっとするだろうと思いました。でも、家のことが気になって。心が落ち着きません。さっき、家に電話をしてしまいました。娘には早く帰ってきてと泣かれてしまいました」

時々、涙声になりながら、女性の話は続きました。

「たくさん話を聴いてもらって、少し落ち着きました。家に帰っても状況は変わらないと思うけれど、今日はゆっくり休んで、明日からまた、何とかがんばってみます」
そう言って、女性からの電話は切れました。

(内容は、電話を基に構成し直したものです)

毎月10日(午前8時より翌日午前8時まで)は
フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」が実施されています。
電話番号 0120-738-556

新潟いのちの電話後援会の歩み

渡邊 景子

新潟いのちの電話後援会は1992年に出来ました。

「いのちの電話」の募金をしていただく会員獲得が目的で「新潟いのちの電話」を発足させた萩屋初代理事長や、眞壁元理事長の呼びかけで発足し、その後資金面での支援のため、バザーやチャリティー公演などをするようになりました。

今は斎田英司会長、渡辺敏彦副会長のもと活動しています。現在新潟の事務局と、3地区に支部があります。それぞれ「いのちの電話」のPRや募金活動を行っています。

上越支部は毎年お茶会を開催。長岡支部は自殺予防の講演会を、また下越支部は自殺予防条例を阿賀北地区の自治体に呼び掛け、成立させるほど活発です。

新潟の事務局では、チャリティーバザーと県の補助金での自殺予防セミナー、BSNの協力で「いのちの電話」の活動を週1回ラジオ放送しています。自殺予防事業は、及川紀久雄理事長の「心と葉の話」とうつ病を克服し、三味線奏者となった小林史佳さんと母の高橋竹育さんの演奏と経験談です。これは今年6年目でどこの会場も満員です。チャリティーバザーは個人の方からの寄贈品に加え、県内製菓会社や酒造会社など多くの企業の協力で寄贈品の数も充実しています。

当日は多くのボランティアに混じり、にいがた製菓・調理師専門学校えぶろんの学生が自作のケーキをもって参加、また新潟総合学園の学生ボランティアの声が響くにぎやかな会場になっています。

「いのちの電話」の活動資金の一助になると同時に企業や県民へのPRになっていると感じています。後援会の役割は時代に合わせ変わってきました。今後も後援会が出来る支援を果たしていきたいと思います。

(新潟いのちの電話後援会 事務局長)

お知らせ

第33期相談員養成講座開講

5月7日、受講者10名で開講しました。1年かけて、電話相談に必要な学習を重ねていきます。

養成講座は毎年秋から募集を開始します。共に学びつつ、受話器を握る仲間に加わっていただけますよう、お願いいたします。

ネット相談開始

すでに東京や埼玉など10都県で実施している「いのちの電話インターネット相談」に、新潟も参加することとなり、4月19日から相談の受け付けを開始しました。

パソコンやスマートフォン、携帯電話から「いのちの電話インターネット相談」サイトにアクセスし、メールで相談することができ、専門の相談員が返信します。障害などで電話の利用が難しかった方や、メールを多用する方の利便性が高まるものと思われます。



チャリティーバザー

(新潟いのちの電話後援会主催)

日時 9月27日(日)11時から

会場 新潟市総合福祉会館

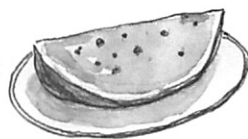
バザーで販売できる物品のご寄付を、8月から受け付けます。今年もぜひご協力をお願いいたします。

新潟市内の方は、ご連絡をいただければ受け取りにうかがいます。

会費納入のお願い

毎年6月に、会費納入のお願いをしています。

納入いただいた会費は、センターの維持費、相談員の研修費など、いのちの電話の活動のために、大切にさせていただきます。ご協力、ご支援をお願い申し上げます。



2015年6月22日発行

社会福祉法人 新潟いのちの電話

〒950-0994 新潟市中央区上戸2-2-3 新潟ユニゾンプラザ ハート館
事務局 TEL (025) 280-5677 FAX (025) 280-5677
ホームページアドレス <http://www.ni-denwa.jp/>

楽 天

人生に味をそえるのは
楽天という薬味

悲観は いたるところ
スープに入っている
髪をみつけるが
楽天は
もっといい目をもっている

いばらの人生に
花をみつけるからだ

容易にあきらめず
難関にぶちあたっても
忍耐とユーモアを忘れない

楽天には三つの根がある
おごりのない自信と
この人生への信頼
そして 見えない力が
ときに働くこと信じていること

先はもう壁 というときも
この信頼があれば
きっと 道は開ける